

炎症性腸疾患患者の栄養病態と内科治療成績との関連に関する後方視調査

(研究対象者)

対象疾患名：クローン病、潰瘍性大腸炎

治療期間：2011年4月～2020年3月に滋賀医科大学附属病院消化器内科で入院治療を受けた患者

【研究協力をお願い】

当科と栄養治療部では「炎症性腸疾患患者の栄養病態と内科治療成績との関連に関する後方視調査」という研究を行います。この研究は、2011年4月～2020年3月に滋賀医科大学附属病院消化器内科で入院治療を受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：炎症性腸疾患患者の栄養病態と内科治療成績との関連に関する後方視調査

研究期間：学長承認日（2020年4月8日）～2022年3月31日

実施責任者： 滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座 佐々木雅也

(2) 研究の意義、目的について

クローン病や潰瘍性大腸炎は、原因不明の難治性疾患であり、炎症性腸疾患と称されます。いずれも栄養障害を呈する疾患ですが、これには経口摂取の不足、消化吸収障害、蛋白漏出などの要因以外に、エネルギー代謝の変化も一因となります。しかし、エネルギー代謝と栄養状態との関連については不明であり、エネルギー代謝の変化や栄養状態が内科治療成績にどのような影響を及ぼすかについても詳細は明らかにされていないのが現状です。

本研究は、炎症性腸疾患患者のエネルギー代謝と栄養病態との関連、エネルギー代謝の変化や栄養病態と内科治療成績との関連について後方視調査をおこなうものです。本研究の結果により、クローン病や潰瘍性大腸炎の栄養学的リスクを明らかにすることができます。また個々の病態に応じた栄養療法の確立に向けた基礎データが得られると考えております。

(3) 研究の方法について

研究対象期間に入院治療を受けた患者さんのカルテ情報から、患者基本情報、入院時の栄養状態、疾患の重症度、内科治療の内容、栄養療法の内容、エネルギー代謝の変化(間接熱量測定施行者のみ)について調査し、それぞれの関連について解析をおこないます。

(4) 予測される結果(利益・不利益)について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7) その他

ご希望される方には、研究計画書を閲覧していただくことも可能です。その場合は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座 佐々木雅也

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2519 メールアドレス：sasaki@belle.shiga-med.ac.jp